

令和7年度
第3回鹿島市地域公共交通会議・鹿島市地域公共交通活性化協議会
合同会議

日 時：令和8年3月30日（月）15時00分～

場 所：鹿島市役所 3階 庁議室

1. 開 会

2. 会長のあいさつ

3. 報 告 「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト 実施結果について

4. 協 議 鹿島市地域公共交通計画改訂業務 スケジュール・仕様書（案）について

附帯決議 この協議会において可決された事項で、行政庁の指導等を含め、字句など軽微な修正が必要となった場合は、会長一任によりこれをなすことができるものとする。

5. その他

(1) 次回開催予定について

6. 閉会

鹿島市地域公共交通会議委員
鹿島市地域公共交通活性化協議会委員

(任期:R6~R7)
(令和7年度)

No.	所 属 等	役 職 等	氏 名	備 考
1	鹿島市長又はその指名する職員	鹿島市長	松尾 勝利	会長
2	一般乗合旅客自動車運送事業者の代表者	祐徳自動車(株) 常務取締役バス事業部長	山本 孝義	
3	一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者の代表者	(有)再耕庵タクシー総務部長	山本 浩二	
4	社団法人佐賀県バス・タクシー協会の代表者	専務理事	草野 武生	
5	鹿島市区長会の代表者	市区長会 幹事	中島 健介	副会長
6	鹿島市老人クラブ連合会の代表者	副会長	中島 スミエ	
7	鹿島市民生児童委員連絡協議会の代表者	鹿島市民生児童委員	樋口 和幸	
8	鹿島市PTA連合会の代表者	鹿島市PTA連合会理事	山口 祥子	
9	市内小中学校代表者	七浦小学校 校長	片渕 千佳	
10	一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者の代表者	祐徳自動車(株)運転者	大石 智子	
11	九州運輸局佐賀運輸支局の職員	首席運輸企画専門官 (企画調整担当)	牟田 嘉伊座	協議会委員
		首席運輸企画専門官 (企画輸送・監査担当)	千種 智章	交通会議委員
12	佐賀県の担当職員	佐賀県地域交流部交通政策課 地域交通システム室 係長	長本 敬幸	
13	佐賀県杵藤土木事務所の職員	管理課長	太田 武経	
14	鹿島警察署の職員	交通課長	古賀 誠二	
15	鹿島商工会議所	専務理事	有森 滋樹	監事
16	九州旅客鉄道株式会社	江北駅長	鴨川 彰久	
17	鹿島市建設住宅課	課長補佐	江頭 利宏	
18	鹿島市都市計画課	課長補佐	峰松 紘子	監事

事務局

	所 属 等	役 職 等	氏 名	備 考
	鹿島市政策総務部	部長	川原 逸生	
	鹿島市広報企画課	課長	田中 美穂	
	鹿島市広報企画課	課長補佐	木原 智典	
	鹿島市広報企画課	職員	小山 龍司	

令和7年度

第3回鹿島市地域公共交通会議・鹿島市地域公共交通活性化協議会

資 料

- P 1 「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト 実施結果について
- P 13 鹿島市地域公共交通計画改訂業務 仕様書・スケジュール（案）について

報告1 「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト 実施結果について

【概要】

「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクトは、交通を地域の暮らしと一体的に捉え、自治体や交通事業者、民間事業者など多様な主体の連携・協働によって地域交通の維持・活性化を図る取組を支援する事業で、下表の2事業を実施。

事業名	事業費	概要
共創モデル実証運行事業	3,432,819円	官民や交通事業者間など複数主体の連携による「共創」の取組や仕組みづくりの支援
モビリティ人材育成事業	12,947,000円	地域交通を担うモビリティ人材の育成体制の構築・運営支援

「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト（令和7年度）

共創モデル実証運行事業/モビリティ人材育成事業

【担当部署】
総合政策局（地域交通課）

交通を地域の暮らしと一体として捉え、地域の多様な関係者の「共創」(連携・協働)※によりその維持・活性化に取り組む実証事業、人材育成を支援します！ ※「共創」が「官民共創」「交通事業者間共創」「他分野共創(交通と他分野の垣根を越えた連携)」

1. 共創モデル実証運行事業

補助対象事業者

交通事業者等※を含む複数主体で構成される協議会や連携スキーム等（共創プラットフォーム）
 ※交通事業者等一般乗合・一般乗用旅客自動車運送事業者、鉄軌道事業者、一般旅客定期航空事業者、公共ライドシェアの実施主体、シェアサイクル等の事業実施主体、道路運送法上の許可・登録を要しない輸送サービスの実施主体等
 （注）単一の事業者のみでは補助対象なりません。

補助対象経費

- 新たな事業の立ち上げ及び実証運行に係る以下の経費に対して支援を実施
- ①基礎データ収集・分析、協議会開催に要する経費（有識者謝金・会場使用料等）
 - ②システム構築（配車・運行管理・AIオペメント等）、実証運行に使用する車両導入（車両の購入・リース等）による取得・改造に要する経費
 - ③実証事業に要する経費（新規運行に係る経費、実証環境の整備等）



▲他分野共創の分類例

補助④	A 中小都市、過疎地など (人口10万人未満の自治体)	B 地方中心都市など (人口10万人以上の自治体)	C 大都市など (東京23区・三大都市圏の政令指定都市)
	500万円以下は定額、 500万円超部分は2/3	補助率2/3	補助率1/3

【事業例】※R5年度:77事業、R6年度:256事業を支援

- スクールバス・介護輸送・商業施設送迎等の地域輸送資源の混乗化、遊休時間帯における地域路線への活用
- 介護予防プログラムの一環として公共交通を利用した外出を促進（介護予防財源の活用）
- 教育委員会との連携による児童の登下校・部活動送迎・あわせデマンド交通等の実証運行
- 商工会議所・商工会や社会福祉協議会、観光協会、地域金融機関、農協等の地域経済界による取組等



2. モビリティ人材育成事業（定額：上限3,000万円）

補助対象事業者 地域における交通やまちづくりに取り組む人材の育成を行う都道府県、市町村・民間事業者等

補助対象経費 地域交通分野におけるモビリティ人材の育成に関する取組実施経費（注）市町村域を超えた広域的な取組に限ります。

問合せ先

令和7年度「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト 事務局
 メールアドレス：contact@kotsu-kuhaku.jp
 コールセンター：0570-000984

公募期間

令和7年3月10日（月）～4月7日（月）
 【採択時期目安：令和7年5月上旬（予定）】

【事業目的】

本市では、自家用車依存の高まりや人口減少により公共交通の利用者が減少し、事業者や市の財政負担が増大するなど、公共交通の維持が年々困難になっている。加えて、高齢化率は2020年に30%を超え、今後も高齢者の増加や運転免許自主返納者の増加により、交通弱者の拡大が見込まれる。現在、市内には市内循環バス、のりあいタクシー等の複数の公共交通が存在するが、複数でのダイヤが見えにくいことや共通チケットがないことから、特に高齢者にとって利用しづらい状況となっている。

また、鹿島市はゼロカーボン宣言を行っているものの、運輸部門では依然としてガソリン車への依存が高く、原油高騰等を踏まえ、EV車導入によるCO2削減が求められている。

本事業では、DXを活用した鹿島MaaSの検討と、EVバスの実証運行を行い、将来の公共交通の利便性向上と利用促進を図ることを目的とする。

【事業概要】

事業名	鹿島MaaSの導入検討、EVバス導入に向けた実証運行
事業期間	令和7年8月～令和8年1月
事業実施地域	鹿島市
実施体制	官民共創（行政・交通事業者・IT事業者・金融機関・地域住民）
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利便性向上 ・利用促進 ・EVバス導入可能性の検証 ・持続可能な交通体系の構築
<p>鹿島MaaS導入に向けて、IT事業者、市内交通事業者との連携・協議を図るとともに、EVバス導入に向けて、実証実験を行い、本事業の全体的な協議を鹿島MaaS構築×EVバス実証運行検討委員会で行うことで、行政×IT×交通事業者での共創を行い、地域公共交通の持続的な発展を進展させる。</p>	

事業内容

内 容	<p>本市では、自家用車依存の高まりや人口減少により公共交通利用者が減少し、交通事業者および市の財政負担が増大するなど、公共交通の維持が年々困難な状況となっている。また、高齢化の進行により、運転免許自主返納者の増加など交通弱者の拡大も見込まれている。</p> <p>このため、DXを活用した鹿島 MaaS の導入検討および EV バスの導入可能性の検証を行い、公共交通の利便性向上と持続可能な交通体系の構築を目的として、行政、交通事業者、IT 事業者、金融機関、地域住民等による官民共創の検討会議を開催した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自家用車への依存 →公共交通需要の減少、CO2増加 ✓ 高齢化の進行に伴う交通弱者の増加 ✓ 自治体負担額の増加 ✓ 運転士不足 </div> <div style="font-size: 2em; color: #008000; margin: 0 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 持続可能な公共交通の運営 ✓ 公共交通の利便性向上 ✓ 公共交通での外出機会の創出 <p style="text-align: center; color: #008000;">↓ MaaSの活用</p> <p style="text-align: center;">☆誰もが使いやすい公共交通に</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">鹿島MaaS</p> <p style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"><u>鹿島市独自の情報を一元化した交通システム</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 目的地までの最適なルート検索 ② 複数の交通機関の予約・決済が可能 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 交通弱者に対する移動サービスの利便性向上 ✓ 公共交通利用者の増加 ✓ 持続的な公共交通 <p style="text-align: center; color: #008000;">➡ <u>今回は企画・設計まで実施</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">EVバス</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自動運転との親和性 →自動運転に必要なセンサーや制御システムとの統合が容易 ✓ データ収集・活用 →充電データ、電力消費量など詳細な運行データの収集が可能 ✓ 運行管理の最適化 →高度な運行管理システムとの連携が可能 ✓ メンテナンスの効率化 →故障予測や遠隔診断 <p style="text-align: center; color: #008000;">➡ <u>実証運行(9/17~30)</u></p> </div> </div>
検討会議 実施日	<p>令和7年9月24日(水)、10月16日(木)、11月20日(木)、12月18日(木) 令和8年1月15日(木) (全5回)</p> <p>以下の流れで段階的に検討を行った。</p> <p>①事業内容と現状の把握、②問題・課題の発見、③EVバス実証運行結果報告 ④目標設定、⑤解決策検討、⑥システム企画・設計、⑦鹿島 MaaS のまとめ (全体)</p>
参加者	行政、交通事業者、IT 事業者、金融機関、地域住民代表

EVバス実証運行

実施日	令和7年9月17日(水)、18日(木)、19日(金)、20日(土)、22日(月)、23日(火祝)、25日(木)、26日(金)、27日(土)、30日(火) 計10日間 【乗車人数】 平日：282人 / 土曜・祝日：236人 計518人
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 平日は子ども向けの乗車体験会を開催 土曜は市民向けの乗車体験会を開催 祝日は「公共交通体験フェスタ」にてEVバス乗車体験会を実施
市民評価	快適・導入希望多数、災害非常電源として期待
課題	初期導入コスト、維持管理費

駅からGo! かしま公共交通体験フェスタ @肥前鹿島駅

2025年9月23日(火・祝) 10:00 - 15:00

会場レイアウト

- 肥前鹿島駅トイレ
- JR肥前鹿島駅
- グリーンスローモビリティ乗り場
- ミニトレイン
- EVバス乗り場
- EVバス展示 体験コーナー
- 移動動物園
- キッチンカー
- 会場受付 手話ステーション
- バス受付
- 休憩スペース
- ボランティア連絡協議会
- ステージ
- 駐輪場

会場駐車場: 鹿島市堂中央駐車場

QRコード:

鹿島市役所 広報企画課 広報企画係 TEL: 0954-63-2101 (直通)
E-mail: kikaku@city.saga-kashima.lg.jp

ホームページ:

＼電気で走るバス！／

EVバス乗車体験会

でんきで走るバスにのって
かしまをめぐってみよう！

令和7年
日にち 9/17 水 18 木 19 金 22 月 24 水 25 木 26 金 29 月 30 火

時間 9時～16時の時間帯からご希望の時間を選択ください

運賃 無料

車両 座席17人 立席12人 定員29人

ルート 地区ごとにルートが異なります

鹿島/北鹿島/能古見地区	指定乗車場所⇨祐徳神社⇨肥前鹿島駅
浜地区	指定乗車場所⇨祐徳神社⇨肥前鹿島駅
古枝地区	指定乗車場所⇨肥前鹿島駅
七浦地区	指定乗車場所⇨祐徳神社

※指定乗車場所は貴団体がご指定ください

お申込みはこちら

申込期間 7月1日から7月31日まで

お問い合わせはこちら
鹿島市 広報企画課 ☎0954-63-2101
kikaku@city.saga-kashima.lg.jp

検 討 内 容	
現状・課題整理	<p>本事業では、地域公共交通の利便性向上に向けた検討の第一段階として、公共交通に関する「不便・不満・不安」の声を中心に意見の洗い出しを行い、現状課題の整理を実施した。</p> <p>その結果、以下の点が主なポイントとして整理された。</p> <p>【主なポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内3つの公共交通サービスの認知が十分でない ・サービス内容を知ることによって「手厚いサービス」との理解が得られた ・システム導入に対し「利用できるか不安」といった声も確認された
課題対応への方向性	<p>検討会議において整理された主な方向性は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通に関する情報発信・広報の強化 ・経路検索が可能なアプリ等の導入検討 ・運行状況の見える化（ロケーションシステム） ・料金決済機能の検討 ・利用者向け操作研修などのサポート体制整備 <p>また、これらの取組を進めるにあたり、必ずしも独自のシステムを構築することに限定せず、既存の経路検索アプリや交通サービスとの連携の可能性についても検討を行った。</p>
EVバス実証運行	<p>EVバスの実証運行では、市民アンケート（回答者110人）を実施し、利用者の評価や導入可能性について検証を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内110人のアンケートによると「とても快適」「ぜひ導入」が主な意見 ・CO2削減効果、燃料費低減効果、災害時非常電源としての期待大 ・初期導入コスト及び維持管理費に不安があり対策検討 ・事業期間中にEVバスの不具合等に関する報道もあり、導入に対する安全性や信頼性への懸念が社会的に高まる状況も見られた <p>以上のことから、導入にあたっては技術動向や費用等を十分に踏まえながら慎重に検討する必要がある。</p>

鹿島 MaaS の企画設計・まとめ	
対象サービス	市内循環バス・高津原のりあいタクシー・予約型のりあいタクシー
主な機能(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・複数交通手段を組み合わせた経路検索 ・予約・決済の一元化 ・3サービス共通のデジタルチケット ・キャッシュレス決済 ・運行状況のリアルタイム表示 ・乗継ぎ案内 ・高齢者にも配慮した操作画面 ・利用データの可視化（自治体・交通事業者向け）
今後の方向性	<p>これらの検討結果を踏まえ、検討会議において整理された主な方向性は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MaaS は新たなシステム導入を目的とするものではなく、既存の交通サービスを有効に活用する仕組みとして検討する必要がある。 ・導入にあたっては費用対効果を十分に検証し、段階的な取組として進めていくことが望ましい。 ・既存の交通アプリやサービスとの連携も有効な手法であり、必ずしも独自システムの構築に限定する必要はない。 ・公共交通の利用促進のためには、市民に対して交通サービスの内容を分かりやすく周知することが重要であり、広報の強化が必要である <p>今後は、本検討で整理された内容を踏まえ、既存交通サービスの連携方法や導入手法について更なる検討を行うとともに、費用対効果や運用体制等を踏まえながら、段階的な導入の可能性について検討を進めていく。</p>

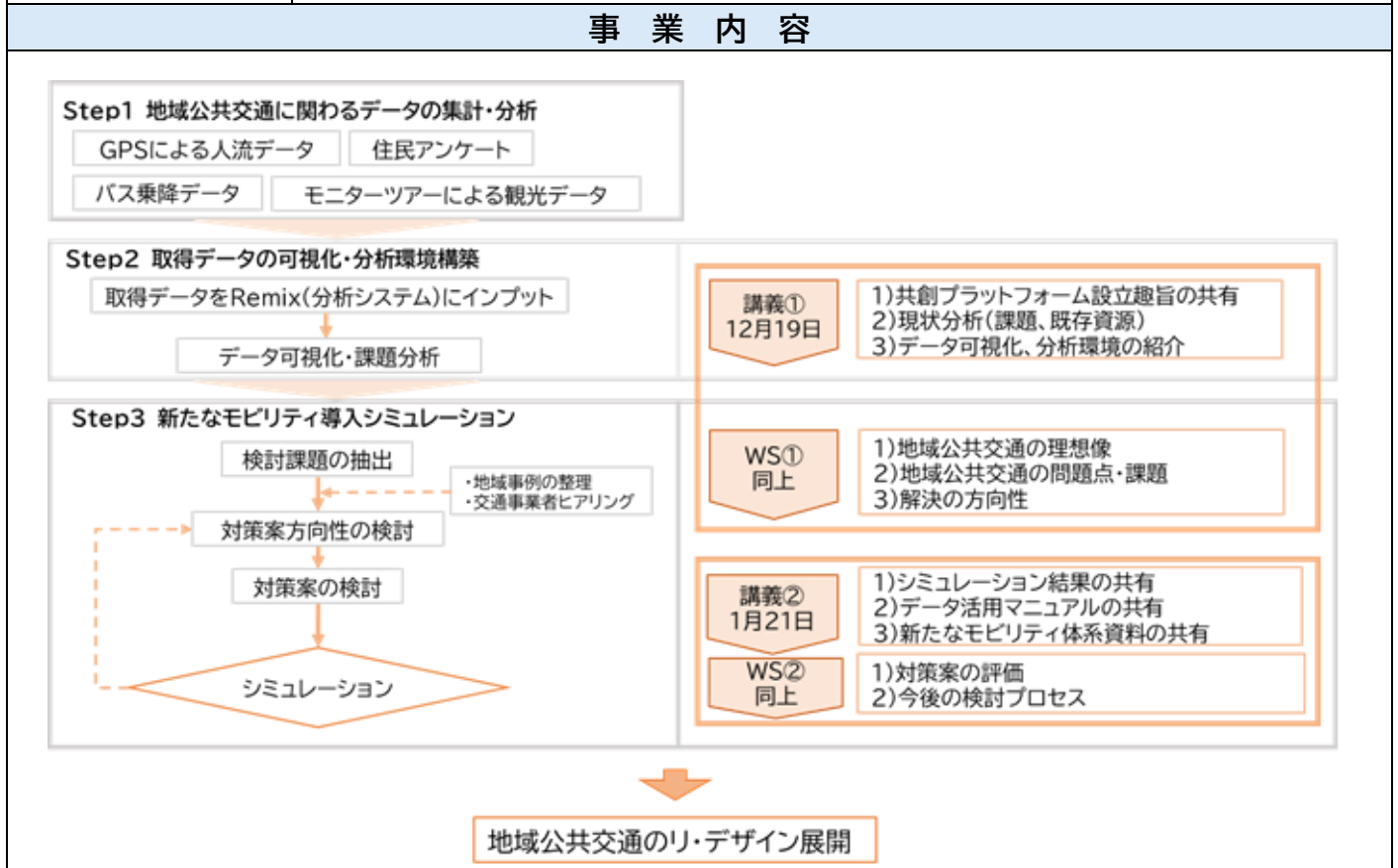
「モビリティ人材育成事業」 実施結果

全国的に自家用車への依存の高まりや人口減少が進む中、当市においても公共交通利用者の減少や財政負担の増加、路線バス・鉄道の減便等により、公共交通の維持は年々厳しい状況となっている。また、公共交通の縮小は観光客の移動手段の確保にも影響することから、「地域住民の生活交通」と「観光客の二次交通」の双方の確保が重要な課題となっている。

このため、地域の多様な関係者で構成する「共創プラットフォーム」を通じて、データに基づく客観的な分析を行い、地域公共交通のり・デザインに向けた検討を進める必要がある。

本事業では、データを活用した地域交通の分析・検討を行うとともに、公共交通施策の評価や検討を担う人材の育成を図り、持続可能な地域公共交通の実現に向けた基盤づくりを目的とする。

事業概要	
事業名	鹿島市地域公共交通り・デザイン人材育成事業
事業実施地域	鹿島市、太良町
人材育成の対象	交通関連の行政職員、交通事業者、観光関係者、福祉関係者、地域住民等
人材育成の手法	講義3回、ワークショップ2回の実施
人材育成の内容	<p>本事業では、地域公共交通に関するデータの集計・分析を行い、「地域の枠を超えた持続可能な地域公共交通の構築」をテーマに共創プラットフォームで検討を実施した。</p> <p>検討は①理想像設計、②既存資源把握、③対策の設計、④合意形成の4ステップで進めた。</p> <p>また、データ分析結果を基にした講義やワークショップを通じて、公共交通の現状評価やり・デザインの方向性の検討、施策評価ができる人材の育成を行った。</p>
受講人数	93人(延べ人数)



1. 地域公共交通に関わるデータの集計・分析

データ取得および分析					
地域特性		公共交通		人流データ	
人口特性	人口推移、人口分布	運行状況	ルート・バス停位置、便数・ダイヤ	取得期間	R6年 10月1日～10月20日
主要施設	主要施設の立地状況	利用状況	利用者数、利用者属性、利用傾向、稼働状況・乗合率	取得情報	移動手段 移動目的 属性（性別、年代）
移動特性	通勤・通学特性、観光動向	運営状況	運行経費、運賃収入、収支率、車両数、乗務員数、行政負担状況		
土地利用	土地利用現況、都市計画区域・用途地域				
交通特性	自動車保有台数、運転免許保有状況				

バス乗降データ取得および分析	
路線バス等乗降調査	
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 路線バス（全5路線） 市内循環バス（全1路線） 廃止路線バス代替路線（全3路線） 高津原のりあいタクシー（全2路線）
調査方法	路線バス、代替路線、市内循環バス ⇒ 車内にカメラを設置し、乗降者を撮影 撮影画像を基に画像認識技術により利用者数をカウントおよび属性を判別 高津原のりあいタクシー ⇒ 既存のドライブレコーダーデータを活用し、利用者数および属性を把握
調査期間	路線バス、代替路線、市内循環バス ⇒ 令和7年10月21日～11月25日 高津原のりあいタクシー ⇒ 令和8年1月15日、17日、20日

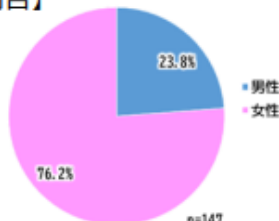
市内循環バス調査結果

【便別、年齢別利用状況（西回り）】

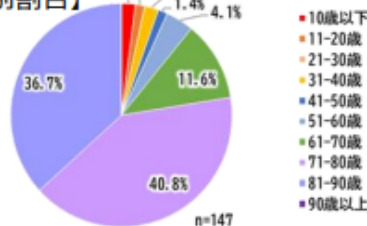
西 単位：人/日

	1便			2便			4便		
	7:55発			9:10発			11:30発		
10歳以下	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11-20歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
21-30歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
31-40歳	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
41-50歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
51-60歳	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
61-70歳	0.6	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0
71-80歳	1.2	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0
81-90歳	1.2	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0
90歳以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【性別割合】



【年代別割合】



観光データ取得および分析

観光モニターツアー	
実施日	令和7年11月9日（日）
内容	貸切バスでの移動が基本だが、バスの乗り換え体験を組み込み、公共交通での移動の際の疑似体験を実施
参加者	17名

モニターアンケート結果

ツアーの満足度



【地域の魅力に対する意見】

- ・祐徳稻荷神社や肥前浜宿の周遊観光が魅力とする意見が多数。
- ・牡蠣小屋、酒、海産物、みかんなどグルメと風光明媚な景色に対する評価も高い。
- ・干潟の景色も評価されている。

旅先の移動手段の重視すること

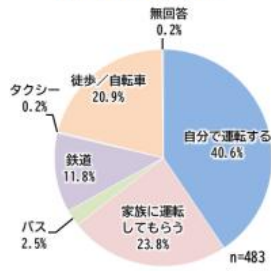


【鹿島市の交通課題についての意見】

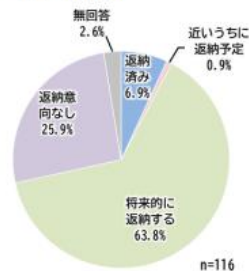
- ・バス本数の少なさ
- ・バスと電車のスムーズな乗り継ぎ
- ・乗り継ぎのわかりやすさ
- ・荷物を持ったままのバス移動はつらい
- ・祐徳稻荷神社と肥前浜宿の直通
- ・歩くことや自転車などの活用

住民アンケートの実施	
調査対象	鹿島市在住の市民 鹿島高校に通学する生徒（市外在住者も含む）
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> WEB アンケート（市報等に掲載のQRコードより回答） 調査票の配布（高校、老人クラブ等）
把握事項	<ul style="list-style-type: none"> 個人属性 公共交通の利用状況 路線バスに対する評価 公共交通に対する課題認識 交通に関する自由意見
回答票数	483票

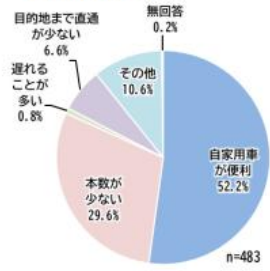
■ 普段最もよく利用している移動手段



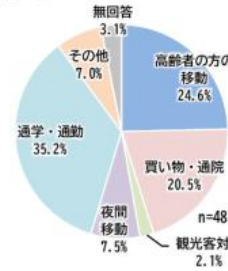
■ 免許返納意向（65歳以上のみ）



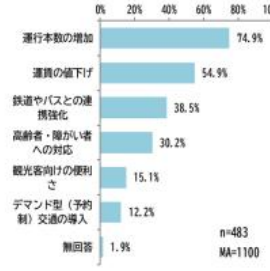
■ 公共交通を利用しない主な理由



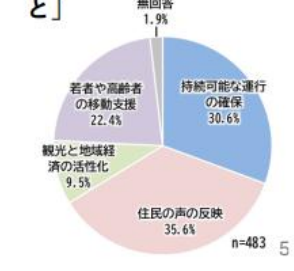
■ 特に困っている交通課題



■ 交通改善で重視してほしいこと



■ 交通施策において「行政に一番期待すること」



2. 取得データ等の可視化、分析環境構築の実施

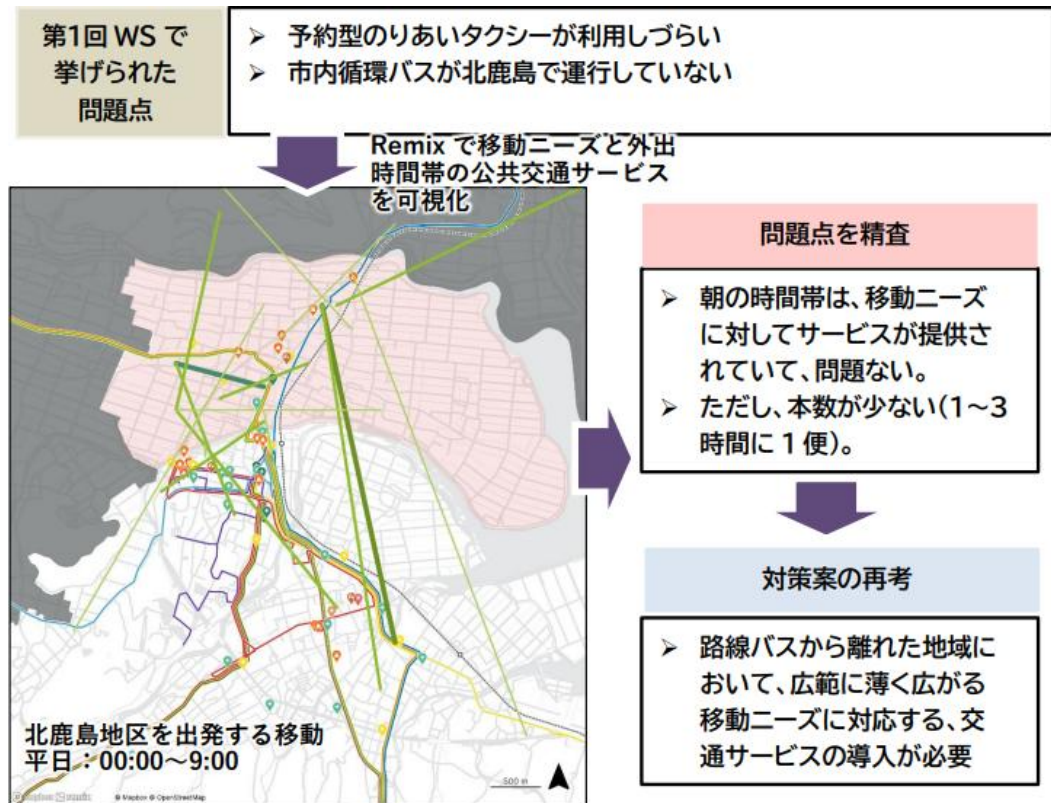
公共交通分析環境の構築	
取得データを「Remix」にインプットし、分析が可能な環境を構築	
<p>■ データ可視化機能</p>	

人材育成 講義・ワークショップ	
公共交通の現状分析・施策評価ができる人材の育成を目的とした、講義・ワークショップを実施	
人材育成プログラム	プログラム全容
①モビリティデータの知識と活用スキルの習得	対象者 行政職員、交通事業者、社会福祉協議会、観光関係者、一般企業、地域住民
②データに基づく公共交通課題の分析と解決策の構想	形式 講義3回、ワークショップ2回
③効果・コストを踏まえた検討方法の習得	内容 第1回：ソリューション・フォーカスト・アプローチ 第2回：公共交通の理想像、課題抽出、解決の方向性 第3回：データを活用した解決策の具体検討
④行政と交通事業者の相互理解の促進	

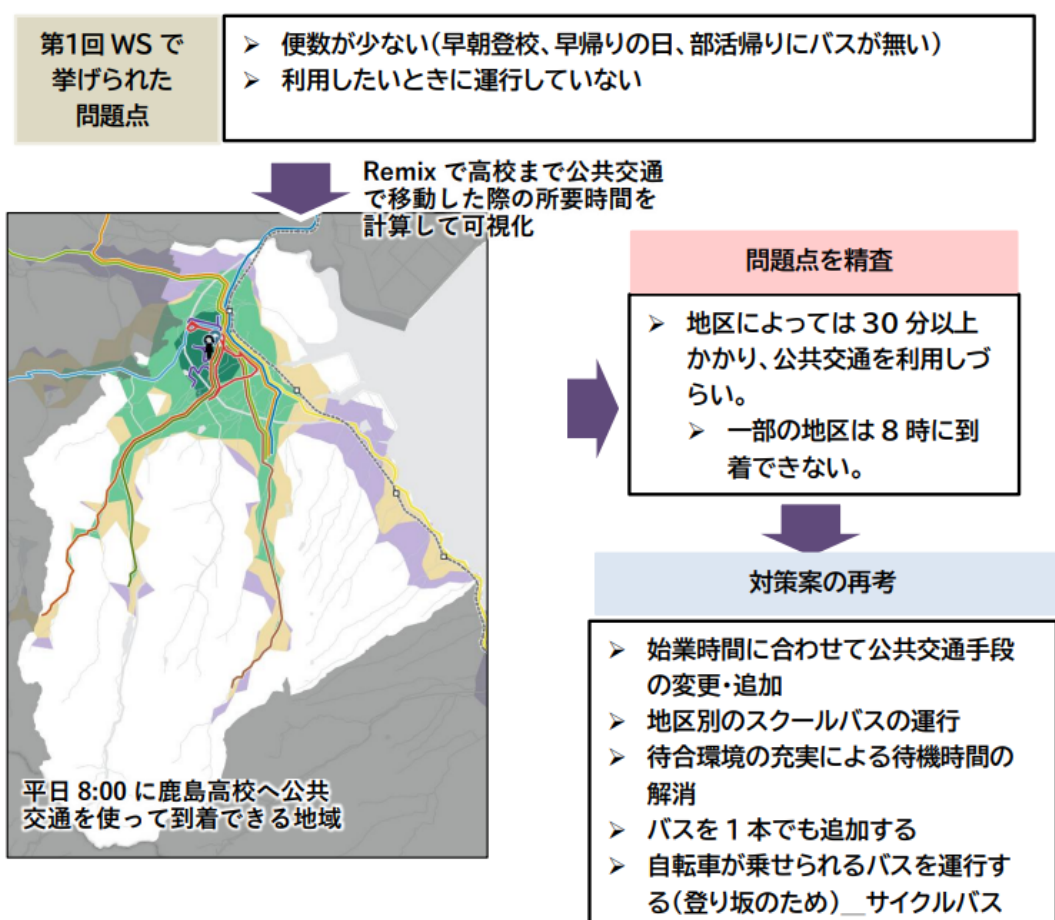
3. 新たなモビリティサービスの導入シミュレーションの実施

可視化した結果をワークショップに提示して、「高齢者」「高校生」「観光(域内周遊)」「小中学生(習い事の移動)」「通勤」のテーマごとに議論を行って、検討課題と解決アイデアを導出した。

① 高齢者



② 高校生



③観光(域内周遊)

	案①	案②	案③
運行曜日	毎日	毎日	毎日
運行時間帯	9時～19時	10時～17時	8時～21時
運行便数	1時間に1本	1時間に1本	30分に1本
運行形態	定時	定時	定時
車両	バス、電車	バス	バス・自転車

	拠点①
提供サービス	<p>【拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祐徳バスセンター ・浜駅 ・多良駅 <p>【サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷物預かり ・案内 ・潮見表

④小中学生(習い事の移動)

取組事例	参考になる点	改良が必要になる点
部活動 MaaS	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者は専用アプリか乗車予約できる →使いやすさ・安全の確認が容易 ・AI 集合配車システムが効率的なルートで各学校や自宅から会場までのルートを作成 →多様な要望を瞬時に集約し、市内全域をカバーできる可能性あり ・地図情報にゼンリンを活用しているので精度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通システムの構築 ・地元タクシー会社との連携 →運転士・車の確保 ・予約受付、配車システムの構築 →導入費用・ランニングコストが課題
習い事応援タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟割り、スポーツ割りがある ・プロドライバーが運転するので安心 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の場所に一定数で集まれば割引等にする
i-Chan	<ul style="list-style-type: none"> ・費用が安いので利用しやすい ・食事支援等のプラスαのサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行時間の拡充 ・キャパシティ(利用者増の対して)
地域の輸送資源の活用(病院・自動車学校等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅まで送ってくれる(安心) ・既存サービスを利用するので現実的 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行ルートが曜日によって異なることに対する対応



他地域事例を参考に鹿島における支援スキーム案を検討

【鹿島・太良におけるスキーム案】

案①

- ・運行: 既存の事業者、協力事業者(スイミング、自動車学校)
- ・費用: 利用者の負担金、行政の補助、習い事事業者の協力
- ・メリット: デマンド利用可能なので便利

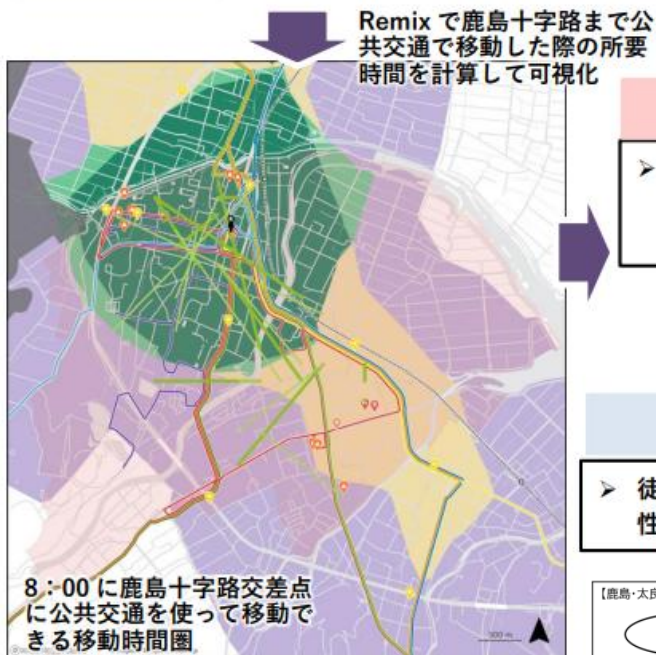
【鹿島・太良におけるスキーム案】

案②

- ・概要: 病院や自動車学校などの送迎車両を利用して、習い事施設と家をつないで運行
- ・車両: 既存の送迎車両
- ・費用: 基本利用者負担(行政や地域団体による割引支援あり)
- ・メリット: 既存サービスを利用するので現実的、運行する施設や会社の周知・宣伝につながる

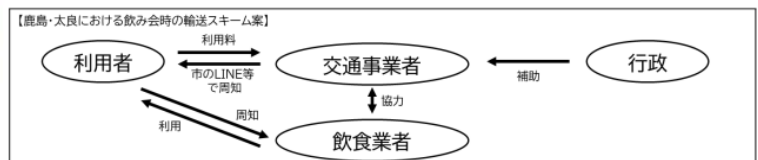
⑤通勤・飲み会時の移動

- 第10回 WS で挙げられた問題点
- 公共交通は便が少ないため、ちょうどいい時間に電車やバスがない
 - 公共交通機関で通勤する場合、働ける場所が限られる
 - 退勤時間が気になる



- 問題点を精査
- 外出先まで徒歩圏内であるため公共交通の必要性が低い。

- 対策案の再考
- 徒歩圏内のためダイヤ増便の必要性はなし



まとめ・今後の方向性

- ・講義およびワークショップを通じて、地域公共交通を取り巻く社会環境や利用実態、課題構造について体系的な理解を深める機会を創出。
- ・公共交通データの分析結果を活用し、地域住民や観光客など対象者別の移動実態を整理することで、データに基づく課題把握および分析手法について実践的に学ぶ機会となった。
- ・ワークショップでは、現状把握から課題整理、対策の設計、合意形成に至るまでのプロセスを段階的に検討し、データに基づく施策立案の流れを体験的に整理することができた。
- ・行政職員、交通事業者、関係団体等が共創プラットフォームの枠組みの中で議論を行うことで、地域公共交通の課題や将来像に関する共通認識の形成を図ることができた。
- ・本事業で得られたデータや検討結果は、令和8年度に予定している地域公共交通計画の策定における基礎資料として活用し、今後の公共交通施策の具体的な検討につなげていく。

協議1

鹿島市地域公共交通計画改訂業務 スケジュール・仕様書(案)について

【改訂の目的】

令和9年3月に期間満了を迎える交通計画から、路線バス、市内循環バス、のりあいタクシー、鉄道など既存の地域公共交通を見直し、地域の特性を考慮した地域公共交通を検証の上、「鹿島市地域公共交通計画」を改訂(アップデート)する。

【契約方法】 随意契約

【契約予定先】 株式会社ケー・シー・エス

【仕様書(案)】 別紙のとおり

【改訂概要】

現計画	アップデート	改訂後計画
<ul style="list-style-type: none">・統計、アンケート中心の分析・交通施策中心の構成・都市計画との連携は限定的・医療・教育との連携は限定的・新幹線開業前の交通環境	<ul style="list-style-type: none">・データ(人流分析)・都市構造との連携・分野横断(医療・教育等)・PDCA強化	<ul style="list-style-type: none">・人流データに基づく需要分析・KPI検証・見直し・立地適正化計画との連携強化・医療・介護・教育との連携強化・西九州新幹線開業後の交通体系整理(長崎本線)

【鹿島市地域公共交通計画改訂スケジュール(案)】

年月	内容	備考
令和8年4月	計画改訂業務に係る補助金の交付決定	
令和8年 4月～5月	計画改訂業務に係る委託契約	随意契約
令和8年6月	第1回交通会議・活性化協議会 →調査事業内容、スケジュール報告	生活交通確保維持 改善計画承認
令和8年10月	第2回交通会議・活性化協議会 →計画策定中間報告	
令和8年12月	第3回交通会議・活性化協議会 →計画策定報告(原案報告)	
令和9年1月	パブリックコメント、原案修正	
令和9年2月	第4回交通会議・活性化協議会 →最終報告、計画決定	

鹿島市地域公共交通計画改訂業務委託仕様書（案）

1. 業務名

鹿島市地域公共交通計画改訂業務委託

2. 業務の目的

全国的に自家用車への依存の高まりや少子高齢化が進む中、本市においても、民間交通事業者や自治体の財政負担の増加などにより公共交通事業を維持していくことは年々厳しさを増している。

また、令和4年9月の西九州新幹線開業に伴い、JR長崎本線の肥前山口（現・江北）～諫早間が上下分離方式へと移行したことによる、特急列車の大幅な削減や、運転手不足によるバス路線の減便を余儀なくされるなど、運行体系に大きな変化が生じており、広域的な移動利便性の確保が新たな課題となっている。

このように、少子高齢化の進行による移動制約者の増加、公共交通の利用習慣が定着しにくい状況、鉄道網の変化や財政負担の課題等が重なる中で、地域住民の日常生活を支える移動ニーズを的確に把握し、持続可能な公共交通網へと再構築（リ・デザイン）していくことが喫緊の課題となっている。

令和7年度には、人流データ等を活用した地域公共交通の利用実態や移動傾向の分析を行うとともに、関係事業者や地域住民等が参画するワークショップを通じて、課題整理や将来像の検討を実施した。

本業務は、これらの検証結果を「基礎データ」として、客観的なデータに基づく分析をさらに深め、上位計画や関連計画との整合を図りながら、地域公共交通のマスタープランである鹿島市地域公共交通計画を改訂（アップデート）するものである。

3. 業務対象区域

鹿島市内全域

4. 業務期間

契約締結日から令和9年3月〇〇日（〇）まで

5. 準拠する法令等

本業務は、本仕様書のほか、次に掲げる関係法令、参考図書等に準拠して実施するものとする。

- (1) 持続可能な運送サービスの提供の確保に資する取組を推進するための地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律（令和2年法律第36号）
- (2) 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成19年法律第59号）
- (3) 都市計画法（昭和43年法律第100号）
- (4) 中心市街地の活性化に関する法律（平成10年法律第92号）
- (5) 高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成18年法律第91号）
- (6) 地方自治法（昭和22年法律第67号）
- (7) 鹿島市個人情報保護条例（平成17年鹿島市条例第12号）

- (8) 地域公共交通計画等の作成と運用の手引き（国土交通省発行）
- (9) 地域公共交通計画のアップデートガイダンス（国土交通省発行）

6. 業務内容

(1) 概況整理（関連計画・基礎データの整理）

本計画の改訂にあたり、反映すべき関連計画の内容及び基礎データを整理する。特に、鹿島市都市計画マスタープラン、鹿島市立地適正化計画及びＪＲ肥前鹿島駅周辺整備全体構想等との整合を図り、居住誘導区域及び都市機能誘導区域と公共交通ネットワークとの関係性について整理・可視化を行う。

(2) 現状分析・課題の整理

① 公共交通の現状整理

- ・各交通機関の利用者数の推移、時間帯別・便別・停留所別利用状況、収支状況等を整理し、需要構造の特徴を把握する。
- ・鉄道とバス、デマンド交通との接続状況、待ち時間、乗継利便性について整理し、交通結節機能の現状を把握する。
- ・バス停上屋の設置状況や老朽化の状況、バス車両のバリアフリー化の状況等を整理する。
- ・民間事業者等による関連交通サービスについても整理し、公共交通との役割分担を把握する。
- ・通院、通学、通勤、買い物、観光等の目的別移動の傾向を整理し、既存公共交通のカバー状況との関係性を把握する。
- ・公共交通利用実績データと人流データを照合し、顕在需要と潜在需要の差異を分析する。
- ・居住誘導区域及び都市機能誘導区域との人の流れの関係性について整理する。

② 既存計画の検証

現計画に位置付けている施策・目標等について進捗状況等を把握するとともに、背景にある問題点・課題を明らかにし、本計画への反映方法などを検証する。

③ 公共交通利用者の現状把握及びニーズ調査

市民の移動の状況や公共交通の利用実態、ニーズ及び既存サービスに対する利用者の評価を把握するための調査を実施する。

④ 交通事業者、その他関係団体へのヒアリング調査

- ・公共交通に関する課題を詳細に把握していると考えられる市内の公共交通事業者に対するヒアリングを実施する。
- ・本計画を策定にあたり、意見が必要と考える関係団体への公共交通に関するヒアリングを実施する。

⑤ 交通空白地における移動手段の検証

- ・人口規模、年齢構成、地理条件等を踏まえて分析する。
- ・既存交通サービスとの重複や空白の状況を地図上で可視化し、優先的に対応すべき地区を整理する。
- ・地域特性に応じた移動手段の方向性を検証する。

⑥ 長崎本線における交通体系及び移動手段の検証

令和４年度の西九州新幹線開業に伴うＪＲ長崎本線の特急減便等において、市民や観光客の移動手段を確保するため調査・検証する。

⑦公共交通に関する課題の整理・検討

上記までの現状整理の内容を受け、市の公共交通に関する課題を以下の視点により分析し、整理する。

- ・人口減少に対応した公共交通網の維持確保
- ・医療、介護施設、教育機関、観光施設、商業施設等への分野ごとの移動課題
- ・交通弱者対策
- ・運転手不足対策
- ・周辺地域との連携
- ・新たな利用促進策
- ・広域交通アクセス、交通結節機能
- ・MaaS等、新技術の導入検討
- ・持続可能な仕組みづくりと、地域住民の参画・理解の促進

(3) 計画の策定

①基本方針（将来像）、計画目標の設定

課題、問題に対応するための地域公共交通の将来像（基本方針）を設定するとともに、その中で公共交通が果たすべき役割を明確化し、取組の方向性を検討すること。また、まちづくりや観光振興、高齢者福祉、子育て支援など様々な視点を含めて将来像を設定すること。

計画目標については、基本方針に即した定量的な目標（数値目標・評価指標等）を設定し、目標の年次や設定理由を提案すること。

②計画目標を達成するための事業及び事業主体等の検討

計画目標を達成するために実施すべき事業及びその事業主体・実施時期等を検討する。また、達成状況の評価を行うために実施する調査や評価時期、見直し時期等を提案する。

③計画（原案）のとりまとめ

これまでの内容を踏まえて、令和8年12月までに本計画(原案)を作成する。

④パブリックコメントの実施支援

令和9年1月に予定しているパブリックコメントの実施にあたり、HP掲載用の資料作成、意見の集約、回答作成に当たっての助言、計画への反映等を行う。

⑤計画書及び本計画概要版の案のとりまとめ

・パブリックコメントの意見を踏まえて、本計画書（案）及び本計画概要版（案）を作成する。

・計画書の構成は、施策・事業の決定・実行と、継続的なモニタリング体制、施策、事業に重点を置いた内容を本編として構成し、計画本体の分量は、50ページ程度とする。

・現状把握や関連計画等に係る資料、住民アンケートの結果、データ分析、関係団体との協議記録等の補足的情報はすべて別冊の参考資料編として整理し、本体の構成を妨げないように配慮する。

(4) 会議の運営支援

①鹿島市地域公共交通会議・鹿島市地域公共交通活性化協議会合同会議の運営支援

・本計画の策定に向けて開催される「鹿島市地域公共交通会議・鹿島市地域公共交通活性化協議会合同会議」において、会議用資料の作成、資料説明（会議出席）議事録の作成などの運営支援を行う。

- ・会場の確保に係る費用、委員報酬、会議用資料印刷費用等は協議会が負担する。
- ②事務局との打合せ
必要に応じ、事務局との打合せを実施すること。

7. 成果品

- (1) 鹿島市地域公共交通計画 100部(仕様:A4版、カラー)
- (2) 鹿島市地域公共交通計画 概要書 100部(仕様:A3版、カラー)
- (3) 業務報告書(各種調査集計・分析結果及びその関係資料)一式
- (4) (1)～(3)を記録した電子媒体(CD-R)一式
※電子媒体については(1)から(3)それぞれをPDFおよび加工可能なデータ形式(ワード、エクセル等)で作成し、提出すること。

8. 成果品の提出先

鹿島市地域公共交通活性化協議会事務局(鹿島市役所政策総務部広報企画課内)

9. 成果品の帰属

本業務における成果品は全て鹿島市地域公共交通活性化協議会に帰属するものであり、協議会の許可なく複製、複製又は第三者に提供してはならない。

10. その他

- (1) 受託者は、業務上知り得た個人情報、その他秘密事項を他人に漏らし、又はその他の目的に利用してはならない。業務終了後も同様とする。
- (2) 受託者は、感染症対策に十分に配慮して業務を遂行すること。
- (3) この仕様書に定めがない事項及び仕様書について疑義が生じた場合は、別途協議するものとする。

11. 担当部署

鹿島市地域公共交通活性化協議会事務局 小山
(鹿島市役所政策総務部広報企画課内)

〒849-1312

佐賀県鹿島市大字納富分2643番地1

TEL:0954-63-2101 FAX:0954-63-2129

E-mail:kikaku@city.saga-kashima.lg.jp